

March 25, 1984

**Cable from Ambassador Katori to the Foreign
Minister, 'Prime Minister Visit to China
(Conversation with General Secretary Hu Yaobang)'**

Citation:

"Cable from Ambassador Katori to the Foreign Minister, 'Prime Minister Visit to China (Conversation with General Secretary Hu Yaobang)'", March 25, 1984, Wilson Center Digital Archive, 2002-113, Act on Access to Information Held by Administrative Organs. Also available at the Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan. Obtained for CWIHP by Yutaka Kanda and translated by Ryo C. Kato.
<https://digitalarchive.umd.edu/document/118846>

Summary:

Hu Yaobang and Nakasone Yasuhiro exchange views on the Soviet Union, the Korean Peninsula, and Sino-Japanese relations.

Credits:

This document was made possible with support from MacArthur Foundation

Original Language:

Japanese

Contents:

Original Scan
Translation - English

この矢印の方向に裏向きに入れて下さい。

秘密指定解除 情報公開室

極秘

- 注意**
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
 2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班 (TEL 2171, 2174) に。
 3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL 2172) に連絡ありたい。

電信写

Q36RA

大政事外外儀官
務務典房
次次
臣官官審審長長

博公外査
代表使研察
審

総総察人電在儀警
括書対文会厚情才

調企長 審企情析調

領移長 参一二旅査移

長 審地中東了
二難
東対
参北一西

米長 審北北保
一一

南長 審一二

欧長 審西ソ洋
一西
二東

近了長 審一二アア
一一

次 経国資漁
経国資
審総一一二博

審海

経協長 審政技一開
一技
参国一二理

条長 審条協規

国長 審企軍專
参政経

科審 科原

情長 審道内文
一文
参ブ外二

総番号 R037705 主管
年 月 25日 01時 15分 中 国 発 亜 中
59年 03月 25日 02時 50分 本 省 着

外務大臣殿 鹿取大使

総理訪中 (コヨウホウ総書記との会談)

第1338号 極秘 大至急 Q36RA

ナカソネ総理は、24日コヨウホウ総書記主催の招えん終了後、午後1時より約70分間、同総書記とテタ・テートの会談を行ったところ

概要次の通り。

1. 冒頭コ総書記より次の発言があつた。

(1) 日中関係

昨年秋の訪日より帰国した後、中央の会議を開催したところ、中央の同志は貴国の朝野の大多数の方々が中日友好協力関係を発展させたいと希望していると認識する点において一致した。

中央の諸同志を代表し、中国の朝野も日本との間に平和友好協力関係を誠心誠意発展させたいと考えていることを改めて申し上げて置きたい。

中央としては中日関係の四つの基本原則じゅん守というスローガンと世々代々の友好のためには先ず21世紀までの友好を進めるとのスローガンをていへんまで徹いさせ、人心深くしんとうさせる所存である。

(2) 外交方針

外務省

03月25日03時03分

この矢印の方向に裏向きに入れて下さい。

秘密指定解除
情報公開室

極秘

- 注意
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
 2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班 (TEL 2171, 2174) に。
 3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL 2172) に連絡ありたい。

電信写

中国の外交方針はすでに確定している。独立自主との外交方針は、数年間じゆく慮の結果決定したものであつて、その本質は非同盟ということである。何故に非同盟であるかとの理由はふたつあり、その第一は中国の情況から見て同盟関係を結べば、中国が広く友人と交わることをさまたげ、少くともこれに影響を与えるからであり、第二は起り得るであろう相手国のき道をいつした行動を抑制出来ないからである。

えいえんに同盟関係を結ばないと断言する訳ではなく、もしも中国、中国人民が危急ぼうの危機に直面した場合には、外国と同盟関係を結ぶことはあり得る。

(3) 中ソ関係

中ソ関係については、その改善を希望しているが、現状から見て、かなり大きく改善する可能性はない。それは主に先方に誠意がないからである。であるからといつて中国はあせらないし、恐れていない。

たとえ中ソ関係が改善するとしても、中国は対日友好協力関係を放棄しない。もしも、中ソ関係に重大な変化がある際は、われわれは直ちに友人 (注: 日本を指す。) に通報申し上げる。

(4) 朝鮮半島情勢

中国は朝鮮半島の緊張かん和の促進と連邦制による統一朝鮮の実現を誠心誠意側面から促していきたい。

一部の資料及び自分の見るところによれば、貴国は北鮮にいくつかの不満があり、北鮮側は日本に対し激しい批判的意見をいただいている。われわれは、貴国と北鮮との意思をそ通させる義務をつくしたいと思つている。自分 (コ) の個人的な意見であるが、貴国が北鮮との間に政府関係でなくとも、より高いレベルの交流を拡大すれば

この矢印の方向に裏向きに入れて下さい。

秘密指定解除
情報公開室

極秘

- 注意
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
 2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班 (TEL 2171, 2174) に。
 3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL 2172) に連絡ありたい。

電信写

ラスになると思う。ナカソネ総理に何らかの御意見があれば、5月に訪朝する予定であるので、それを先方に伝えたい。

南北朝鮮間の緊張をかん和し、連邦制による民族統一を目指すことがゆいいつ可能な方法であり、中国はこれを側面から推進するとの立場を変えることは決してないであろう。

(5) 中国国内情勢

中国の政治情勢は非常に安定しつつ発展しており、自分(コ)は責任を持つて中国が長期にわたり、少くとも80年代全般を通じて安定し続けるものと保証する。

経済成長の勢いは、当初の予想よりも良い。第一に農業は毎年大はばな発展を遂げるであろう。第二に石油については、公表しないでいただきたいが、個人的見解によれば80年代末には1億5000万トンを超えることが出来ると思う。第三に対外開放政策を一層推進する積りであり、初めて申し上げることであるが、われわれは経済特区において特区独自の貨へいを発行することを検討中である。

(6) 経済協力に対する謝意表明

中国の四つの近代化に対する貴国の経済、技術の御支援に非常に感謝する。中国の新聞紙上では貴国の協力に関する報道は少ないが、貴国が朝野を挙げてわが国に示されている友好的態度に対しわれわれは心から感謝している。中国はあなた方の厚い友情を決してわすれることはないであろう。

中国が友情をわすれないことは、3000年前のし経にさかのぼるが、し経に「投トウ報リ」(モモを投げてすももに報いる)との言ばがある。現在われわれは中日両国の友好関係を発展させると表明するしか友情に報いられないが、経済が発展すれば

この矢印の方向に裏向きに入れて下さい。

秘密指定解除

情報公開室

極秘

- 注意
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
 2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班 (TEL 2171, 2174) に。
 3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL 2172) に連絡ありたい。

電信写

貴国の友情に報いることが出来ると思う。

(7) 昨年ナカソネ総理と接触し、貴総理が友情を重んじ、両国ならびにアジアにつき大きな役割を果たす人物であるとの認識を深めたので、自分(コ)は中央の同志に対し、今後貴総理との間に友人関係を深めてまいりたいと話した経緯がある。

2. これに対し、ナカソネ総理より次の通り発言された。

(1) 日中関係

中国との間に友好協力関係を発展させることはアジア・太平洋地域の安定に役立つものであり、自分としては右関係を発展させるため生命ある限り努力して参りたい。貴総書記と自分は国家の大きな責任を負っており、閣下と共に右関係を発展させたい。両国政府がかかる政策を続ける限り、両国間にむじゅんや対立は何らないであろう。両国が相互補完しつつ右関係を発展させていくことは、アジア地域の平和の基礎であり、また世界平和の大黒バシラとなろう。構造的に見れば、日中平和友好関係は国際関係、国際経済関係の中にすでにビルト・インされている。

自分の家族が貴総書記の御家族にこのようにかん待されていることは全中国人民及び日本国民全体が注目しており、両国民はこれを両国及びその国民が21世紀まで友好関係を続けることを象徴するものと受けとつていよう。

(2) 中国側からの謝意表明

先程貴総書記より、日本の対中経済協力につき謝意表明があつたが、かえつて恐縮しており、対中協力は戦争により大きなめいわくをかけた反省の表れであり、当然のことである。

(3) 21世紀委員会

外務省

R037705-04

この矢印の方向に裏向きに入れて下さい。

秘密指定解除
情報公開室

極秘

- 注意
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
 2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班 (TEL 2171, 2174) に。
 3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL 2172) に連絡ありたい。

電信写

本日の人民日報の第一面のほとんどの紙面は、対日関係記事によりうめられていたが、カオ振れが発表された21世キ委員会については王兆国とカヤマ教授等若い人を中心に運営することが望ましいと考えている。同委員会が発足すれば、同委員会より政府に対し、わが方訪中せい年のしゆくはくと両国せい年の技術、文化交流の場所として中日せい年文化交流センターの建設を勧告してもらつては如何と考えている。(ここで、コ総書記より「大いに賛成である」との応答があつた。) 郵電センター、食にくセンター等の無償協力後、もしくはこれとへい行して中日せい年文化交流センターを建設することが望ましい。

(4) 新規円借かん等

新規円借かんは、84年度より、交通、港湾、発電所を中心として7年間に4700億円の借かんを供与することとなつた。5年間に3000億円の借かんを供与することとした大平前総理の訪中時に比し、わが国の財政情勢は非常に^苦しいが、5年を7年とし、3000億円を4700億円とした。これは、自分自身で増額するよう指示した結果である。

輸銀の開発ローンについては、前回の20億ドルより少くないよう、出来れば多くなるよう努力したい。貴総書記が強い関心をいだかれているジュンガルたん鉱の開発については、現在実施されている米バクテル社のフィジビリティ・スタディの調査を見た上で検討し、出来るだけ協力したい。

わが国は資本主義を旨とし、貴国は共産主義を信ぼうするとの体制の相違を超えて、両国が相互補完にもとづき相互関係を発展させていることは世界史上めずらしいことであり、ぜひともかかる関係を発展させてまいりたい。

この矢印の方向に裏向きに入れて下さい。

秘密指定解除
情報公開室

極秘

- 注意
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
 2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班 (TEL 2171, 2174) に。
 3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL 2172) に連絡ありたい。

電信写

(5) 中国の外交方針、対ソ関係

われわれは非同盟との中国の方針を良く理解することが出来る。中国が危急存ぼうの危機に直面した場合には同盟関係を結ぶことがあり得るとの発言をきょう味深く聞くとともに、けいちように価すべき点があると考え。しかし、かかる危機は起り得ないと思う。

中ソ関係に変化がある際は、直ちに通報越すとの御発言に感謝する。

自分はチョウ総理との会談において、ソ連に関する情報を交換し合う旨約束したところ、貴方からも右情報を通報願いたい。

中国側には中ソ関係改善の障害についての3原則があり、日本には北方領土問題があり、日中両国にはにかよつた立場がある。日本には右問題があるため、ソ連に対する警戒心があり、また緊張感がある。(ここで、コ総書記は身を乗り出し、大いになづく所があつた。)

(6) 朝鮮半島情勢

朝鮮半島情勢については、連邦制による平和統一との北鮮の提案はひとつの理想ではあるが、南北そう方の不信感は根強く、特にラングーン事件後南側は北側に対し不信とぞう悪を強めている。

その間にあつて、南北そう方間で接触を進め理解を深めることが重要である。南北の関係はいやがつている男女をなか良くさせるようなものであり、まわりがそのかん境を作ることが重要である。中国の立場は理解し得るが、かかるかん境作りのため、北鮮がアメリカと接近し、韓国が中国と接近する必要がある、わが国は韓国と特殊な関係にあるので、このようなかん境が出来ない限りわが国が北鮮と接近することは難

この矢印の方向に裏向きに入れて下さい。



秘密指定解除
情報公開室

極秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班 (TEL 2171, 2174) に。
3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL 2172) に連絡ありたい。

電信写

しい。その意味では、中国が朝鮮半島情勢のカギをにぎっている。

韓国のテニス選手の訪中等スポーツ交流は望しいものと思う。

(7) 日中間経済協力

政府間の経済協力関係はもとより重要であるが、それより重要かつ多額となる可能性のあるのは民間の経済協力である。大規模工場の建設もさることながら、むしろ中小企業、中小基幹企業の企業協力の方が効果が大きいと考える。わが国の経済発展はこれら中小基幹企業の技術改造に負う所が大きい。

民間企業の対中協力のためには、中国が進めている法制整備、投資の保証等の早期確立が必要であり、かかるかん境が整備されれば、政府として民間企業協力を指導、しようれいしたい。

経済特区専用の貨へいを発行するとのお考えをきょう味深くうかがった。

これらの諸点につき、専門家に検討してもらおう用意があるので、カトリ大使に通報願いたい。(了)

Number R037705

Primary: Asia and China

Sent: China 1:15 Year Month 25

Received: MOFA 2:50 1984 March 25

To: The Foreign Minister From: Ambassador Katori

Prime Minister Visit to China (Conversation with General Secretary Hu Yaobang)

Number 1338 Top Secret Top Urgent Q36RA

Following a reception held by General Secretary Hu Yaobang, Prime Minister Nakasone held a tête-à-tête conversation with the General Secretary (redacted) as shown in the summary.

1. The following statement was made by General Secretary Hu

(1) Japan-China Relations

Following my return from Japan last autumn, the Central Committee [of the Chinese Communist Party] convened and agreed in recognizing the Japanese public's hope to advance friendship and cooperation in China-Japan relations.

On behalf of my colleagues of the Central Committee, I would like to first reiterate that the Chinese public, too, sincerely hopes for the development of peaceful, friendly, and cooperative relations with Japan.

The Central Committee is committed to ingraining and popularizing the slogans of "Adherence to the 4 Principles of China-Japan Relations" and "For Lasting Friendship, First Pursue Friendship Until the 21st Century."

(2) Foreign Policy

China's foreign policy has already been decided. The foreign policy of independence was decided upon after several years of consideration. It is in essence non-alignment. There are two reasons behind non-alignment: first, entering into an alliance relationship would hinder China from widely conducting friendly exchanges, and at the very least it would affect China's ability to do so; second, it would be impossible to suppress the allied nation's likely aberrant behaviors.

This is not to say that China would never enter into an alliance relationship. If China and the Chinese people find its existence in threat, it is possible that China will enter into an alliance relation with a foreign country.

(3) China-USSR Relations

Regarding China-USSR relations, we hope for improvements, but in view of current conditions, there are no possibilities for large improvements. This is because the other party lacks sincerity. With that said, China is neither in a hurry nor is it afraid.

Even if China-USSR relations improve, China will not abandon friendly and cooperative relations with Japan. If there is a great change to China-USSR relations, we will immediately notify our friends (note: this refers to Japan).

(4) The State of the Korean Peninsula

China wants to continue encouraging from the sidelines the easing of tensions and the realization of a unified Korean Confederation.

According to some sources and my own opinion, Japan has several dissatisfactions with North Korea, and North Korea holds Japan with extreme contempt. We hope to fulfill our obligation of having Japan and North Korea exchange views. This is my own opinion (Hu), but it would be a plus if Japan expanded higher-level exchanges, even if it is not a relationship between the governments of Japan and North Korea. As I am planning on visiting Pyongyang in May, if Prime Minister Nakasone has any opinions regarding this matter, I would like to transmit it to the other party.

Because the only possibility is to ease North-South tensions and to aim for national unification through confederacy, China will never stray from its standpoint of promoting from the sidelines.

(5) The Internal State of China

The state of politics in China is very stable and advancing, I (Hu) guarantee that over the long-term, and at the very least through the 1980s, China will continue to be stable.

The rate of economic growth is better than initially anticipated. First, agriculture has expanded broadly every year. Second, regarding oil, although I hope you will not publicize this, I believe that by the end of the 1980s China will produce over 150 million tons. Third, China intends to further promote the policy of opening up to the world, and this is the first announcement on the matter, but we are considering whether or not to issue a special currency in the special economic zones.

(6) Expression of Gratitude regarding Economic Cooperation

We are very grateful of Japan's economic and technological assistance towards China's 4 Modernizations. Although there is little media coverage of Japan's cooperation in Chinese newspapers, we are sincerely grateful of the Japanese public's friendly attitude towards our country. China will not forget your warm friendship.

There is a saying that attests to the fact that China will not forget friendship, a saying from Shijing from 3000 years in the past, "tou tao bao li" (receive a peach, and return a plum). At this time, the only thing that we can give in return is our declaration that we will develop friendly relations between China and Japan, however, when our economy develops I believe that we will be able to reciprocate your friendship.

(7) Last year when I came in touch with Prime Minister Nakasone, I deepened my estimation that the Prime Minister values friendship and that he is a person who will play a large role for our countries, as well as the Asian region, and so on this occasion I told my colleagues in the Central Committee that I wish to continue deepening our friendship with the Prime Minister.

2. In response to this, Prime Minister Nakasone answered with the following.

(1) Japan-China Relations

Developing friendly relations with China will work to stabilize the Asia-Pacific region,

and so, as long as I am alive, I will personally endeavor to develop relations. The General Secretary and I carry great national responsibilities, and, with his Excellency, I want to develop the aforementioned relations. As long as both of our countries' governments continue such policies, there should not be any contradictions or confrontations between our countries. The development of aforementioned relations while our countries mutually complement each other is the basis for peace in the Asian region, and it will be a powerful pillar for world peace. Structurally speaking, peaceful and friendly relations between Japan and China have international relations and international economic relations already built-in.

The entirety of the Chinese people and the Japanese people has noticed how the Secretary General's family has treated my own family. Our citizens have surely taken this to symbolize how our peoples will continue with friendly relations into the 21st century.

(2) Expression of Thanks from the Chinese Side

Earlier, the General Secretary expressed his gratitude regarding Japan's economic cooperation towards China. This expression is actually very humbling, as our cooperation towards China is an expression of our regret over causing great hardships during the War. Given this, cooperation towards China is a matter of course.

(3) 21st Century Committee

The entire front page of today's Renmin Ribao [People's Daily] featured articles regarding relations with Japan. Regarding the lineup of the 21st Century Committee that was announced, we are very pleased that young leaders such as Wang Zhaoguo and Professor Kayama are playing central roles in the committee. Once this Committee begins operating, we wonder if the Committee could recommend to the government that a China-Japan Youth Cultural Exchange Center be established to house our youth who are visiting China and also to promote technological and cultural exchange between the youths of our countries. (Here, Secretary General Hu answered that he is "greatly in favor.") It would be favorable to establish a China-Japan Youth Cultural Exchange Center after or simultaneous to cooperation on a post & telecommunications center and meat-processing center.

(4) New Loans, etc.

For 7 years from fiscal 1984, 47 billion yen in new loans will be provided for, primarily, transportation, harbors, and power plants. The state of our national finances is extremely difficult compared to when former Prime Minister Ohira visited China and said that 30 billion yen in loans will be provided over 5 years; however we have made 5 years into 7 and 30 billion yen into 47 billion yen. This is the result of my own instructions to increase the amount.

Regarding development loans from the Export-Import Bank, we would like to endeavor to make sure that it is not less, but more than the previous \$2 billion. Regarding the development of the Dzungar coal mine that the General Secretary has expressed great interest in, we would like to cooperate as much as possible after taking into consideration the feasibility study being conducted by the American firm, Bechtel.

The mutual development of relations, while overcoming the fact that Japan is a capitalist country and China is a communist country, is a rarity in world history. We would like to develop relations by all means.

(5) China's foreign policy, relations with the Soviet Union

We are able to understand China's policy towards the Non-Aligned Movement. We have taken interest in your statement that China may choose to enter an alliance relationship if she faces an existential threat; we believe it is worthy of consideration. However, we believe that such a threat would be unlikely.

We express our gratitude for your statement that you will notify us immediately if there are any changes in Sino-Soviet relations.

During my meeting with Premier Zhou [Enlai], we promised to mutually exchange information regarding the Soviet Union. I hope for similar exchange of information with you.

Japan and China are in similar positions: while China has the Three Principles regarding barriers to the improvement of Sino-Soviet relations, Japan has the Northern Territories issue. Because of the above-mentioned issue, Japan is cautious and nervous regarding the Soviet Union. (Here, Secretary General Hu leaned forward and nodded many times)

(6) The state of the Korean Peninsula

Regarding the state of the Korean Peninsula: although the North's proposal for a peaceful unification through a federation is ideal, mistrust between North and South is persistent. Especially after the Rangoon Incident, the South's mistrust of the North has greatly worsened.

In this regard it is important for the North and South to come together and deepen mutual understanding. North-South relations are like trying to fix difficult relations between a man and woman; it is important for others around them to create a conducive environment. We recognize China's position, but regarding the creation of such a favorable environment it is necessary for North Korea to come together with the US and for South Korea to come together with China. Because of our nation's special relationship to South Korea, it will be difficult for us to come together with North Korea unless such an environment can be created. In this sense, China holds the key for the state of the Korean Peninsula.

We find sports exchange through such things as South Korean tennis players visiting China to be favorable.

(7) Private Japan-China Economic Cooperation

Economic cooperation between governments is certainly important, but economic cooperation in the private sector has the potential to become even more important and varied. Of course, the establishment of large-scale industries is important, but I believe the effect of small-medium sized enterprises and small-medium sized backbone enterprises will be larger. Our country's economic development largely depends on the technological innovation of these small-medium sized backbone enterprises.

For private sector cooperation with China to begin, the early establishment of the measures currently in progress, such as legal reforms and the protection of investments, is necessary. Once such an environment is in place, the Japanese government can assist and encourage private sector cooperation.

We have taken interest in your thoughts on issuing currency specifically for the special economic zones.

We are prepared for our experts to consider the various topics discussed. We request that Ambassador Katori [Yatsue] be notified. (End)